



《 巻 頭 言 》

「校長会を活用しよう！」

福島県小学校長会北会津支会副会長 小林 義弘
(会津若松市立小金井小学校)

新型コロナウイルス感染症が落ち着きを見せ、11月1日現在、県内の新規感染者数は0。このところ会津域内はもとより、県内でも感染者0が続くようになりました。今後も感染者0は続くのか、第6波は来るのか、いつ・どのくらいの規模か、先は全く読めません。しかし、こんな先の読めない状況の中でも、子どもたちは日々成長を続けています。素晴らしいです。ただ、心配なこともあります。それは経験不足です。

昨年度は、未知のコロナに対し「人との接触を避ける」ことしかできませんでした。学校教育にとって、これはかなり厳しかったです。できることは限られ、様々な行事や活動が中止となりました。「感染しないため」の手立てでしたが、これと引き替えに、子どもたちは様々な「経験」を失いました。運動会や学習発表会、鼓笛隊パレードなど、子どもたちにとっての一大イベントはもちろんのこと、授業中グループで集まっていた話し合い活動や友達とドッジボールをすることもできなくなりました。この時期に経験することで、様々な学びにつなげていたことが、できませんでした。この影響が、今後どのような形で現れてくるのか…。これからでも補えるものなら補いたい。

先日、3年生が門田町御山の柿農家まで見学学習に行きました。5月の遠足は中止となったため、遠足の代わりに…程度で出発。時間が限られた中での移動のため、遠足よりも速めのペース。距離もたっぷり。しかも、お弁当やお菓子もなし。しかし、山を登ると眼下に広がる柿畑。「きれい！」と思わず子どもたちの口から声が出る程感動していたそうです。帰ってきた時の子どもたちは「疲れた」と言っていたはいましたが、みんな笑顔でした。今回の見学学習で味わったこの感動は、遠足とはまた別のものですが、どこかでつながるものがあるのではないかと思います。「これからでも遅くない。できるものはある。」そんなふうに感じました。

私達がやらなければならないのは、「今できることをやる」ことです。みんなわかっていることですが、なかなか難しい。今まで同様に行うことはできません。かといって、やらないのは子どもたちにとってマイナスです。では、どんなふうにやるのか。ここが校長の腕の見せ所です。コロナの状況や学校の実態・特徴を考慮して、「こんなことができるようにしたい」という構想を提示し、先生方の知恵を借りながら進めていくのが一番かなと思います。そんな時頼りになるのが、横のつながりです。学校規模も環境も違いますが、他校の取り組みや考えは必ず参考になります。同じ悩みを持つ校長先生方で連携を図れば、その学校に合った構想を提示できるはずです。同一步調で歩むためだけでなく、その学校に合った取り組みを実践するため、積極的に校長会を活用し、連絡を取り合いましょう。





《 堤 言 》

「全校集会でのお話」

前福島県小学校長会北会津支会会長 唐司 和彦
(会津若松市立荒館小学校)

「あいさつ」、「いじめゼロ」、「やればできる」、「笑顔の運転手さん」、「聴く」、「当たり前が大事」・・・これらは今年度の全校集会で話したタイトルである。

新任校長の頃から今も、全校集会等で全校生を前にして話す場合、授業を行うつもりで指導案ならぬ原稿を書いてから臨むようにしている。特に、新任の頃は、「いい話」をしなければとの気負いもあり、頭を悩まし、話題に困ると「名言」「格言」の類いから借用させていただくこともあった。しかし、自分の言葉になっていないため、話している本人がしっくりこなく、教材研究不足を反省することもあった。話題として、諸行事等で子どもたちからもらった感動、子どもたちの日常のちょっとした言動から私自身が感じたこと、季節の折々の風物や時事に関する事など、折に触れ素直に伝えた時は、子どもたちの反応も良いようである。

校長2年目に、全校集会での話についての認識を少し変える事があった。

梅雨のある日、1階トイレの床が結露のためひどく濡れることがあった。普段は上履きのまま使用しているのだが、上履きのままだと、廊下までもが濡れ、校内は転倒の危険にさらされていた。早速ある先生が気づき、サンダルを準備し、サンダルを使用するよう指導してくれた。使用后、しっかり揃える児童もいるが、普段使用していないため、散乱していることもあった。その光景を目の当たりにし、その日の全校集会で、皆さんのことを思いサンダルを準備してくれた先生のこと、次に使う人のことを思いサンダルを揃えてくれた友だちのことに触れ、感謝の言葉を伝えた。すると、その日のうちサンダルはきちんと揃えられるようになっていた。私としては、少しずつでも広がればとの期待から話したのだが、すぐに徹底されるようになった。当然、先生方の指導が背景にあったからである。

改めて考えてみると、教材研究不足だった時も、先生方は、学級でより具体的に指導してくれていた。感謝、感謝である。このサンダルの件は、全校集会の話は私の考えを直接子どもたちに話ができる大切な機会であると同時に、先生方にも伝える大切な機会となっていることを確認することとなった。

それ以来、子どもたちに話をする機会は、全職員で展開するTTの授業のつもりで、個に応じた指導はお願いし、その折々で私自身が感じたことなどタイムリーな話題を交えながらも、できるだけ先を見通し、目指すものをしっかり示しながら、子どもたちにとって、そして、先生方にとっても魅力的な話となるよう努めなければと感じている。普段からアンテナを高くし、できるだけ旬な話題、子どもたちや先生方に目指して欲しいことなどを、自分の言葉としてしっかり伝えられるよう努めている。

今回、「提言」の原稿依頼をいただいたわけであるが、4月1日より再任用校長として、皆様同様に学校経営に奔走している毎日なので、少しおこがましい。現在、新型コロナウイルス感染症も落ち着いた状況が続き、おかげさまで学校行事だけでなく、地域に出かけたり、地域の方を招いたりする活動が対策を取りながらできるようになり、全校集会も放送でなく対面でできている。うれしさを実感しながらも、次回は何を話そうかと思案中である。そんな流れから本原稿となってしまった次第である。

これから年末年始にかけ人流が多くなることと思う。油断せず令和3年度を互いに乗り切りましょう。なお、来週の全校集会は、「ビックボス」を話題にと練り始めている。

アイデア実践

「あいづっこ宣言の実践」

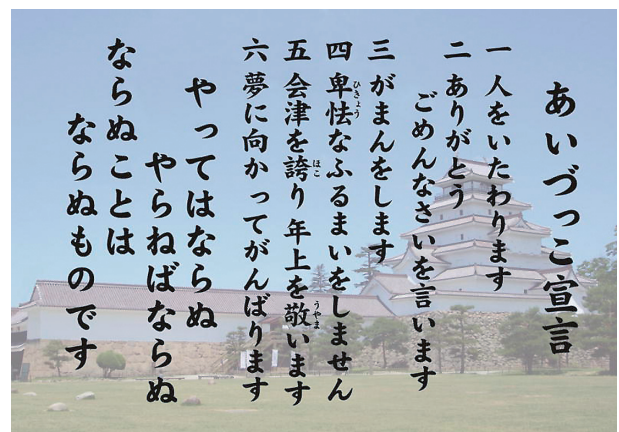
会津若松市立日新小学校 佐藤 俊一

あいづっこ宣言を教育の場に生かすために、子どもたちに暗唱させることは、会津若松市のどの学校でも行っていることである。特に1年生に対しては、暗唱合格証により奨励し、あいづっこ宣言の精神を意識付けている。しかし、実践となると、あいづっこ宣言は、抽象的な部分も多く、なかなか行動に結びつけることは、難しい面がある。

例えば「人をいたわります」「がまんをします」「卑怯なふるまいをしません」「会津を誇り年上を敬います」「夢に向かってがんばります」などは、何を行えば実践できたのか、人によって様々で分かりにくい。そのため、本校では、「学校経営・運営ビジョン」において具体的な形で、位置づけている。一例として「人をいたわります」「卑怯なふるまいをしません」は、「いじめの早期発見、対応」に関連させる。それにより、教職員に、あいづっこ宣言の精神が日新小学校の教育活動の根幹となっていることを理解させている。つまり、「学校経営・運営ビジョン」→「学級目標」とつなげている。

さらに、毎月の職員会議開始の際には、全教職員であいづっこ宣言を唱和している。日新小学校は「日新館」から校名をいただいているが、3管内を経験しなければいけないという、全県的な人事交流により、会津出身でない教員も学校に在籍しており、あいづっこ宣言に対する意識にも差があり、それを埋めるにも有効である。

今後も、あいづっこ宣言の精神を生かすように、日新小学校の教育活動を進めていきたい。



アイデア実践

「校長としての働きかけ」

猪苗代町立長瀬小学校 佐々木 豊

本校児童の課題である「あいさつ」と「消極性」への対応として、校長ができる児童への働きかけを工夫してみました。

【あいさつへの対応】

（１）校長から「とにかくあいさつ」

朝の街頭指導で、廊下で、校庭で、とにかく会う児童全員に、校長から明るく大きな声であいさつの声をかけました。

（２）校長講話等での呼びかけ

着任式の自己紹介で「あいさつが大好きです」と宣言し、最初の全校集会も「あいさつ」をテーマに話をしました。その後の全校集会や始業式、終業式でも、講話の始めを使い、望ましいあいさつの仕方を話したり、あいさつが上手になってきたことをほめたりして、毎回話題にしました。

【消極性への対応】

（１）合言葉（キャッチフレーズ）の作成
キャッチフレーズがあると児童も覚えやすく心に残るのではと思い、「勇気と挑戦」という合言葉を考えました。

（２）校長講話等での呼びかけ

あいさつと同様に、運動会や陸上大会、持久走記録会、音楽祭、スキー大会等で、児童を励ます決め台詞として「勇気と挑戦」を使い、意識づけを図りました。

取組を始めて１年半、あいさつは上手になりました。あいさつの声があふれる学校になったと自分では満足しています。消極性も改善を感じています。児童が作った運動会や学習発表会のスローガンにも「勇気と挑戦」が使われるなど、児童がいつも意識するようになってきました。

校長の児童への働きかけを継続することで課題の改善が見られました。これからも働きかけを工夫していきたいと思います。



《 東北連小報告 》

「児童のキャリア発達における 体験活動や他者との関わりを大切さを再認識」

会津若松市立門田小学校 古川 徹

今年の東北連小福島大会は、紙面開催となったため、発表は動画を撮影してのDVDによる発表、共有となりました。動画の撮影方法については、プレゼンテーションを活用しながら発表している様子を撮影するか、また、プレゼンテーションのスライドに発表音声を入れて作成するかは、それぞれの支部に委ねられることになりました。北会支会3班の発表は、発表収録後に修正したい部分だけを録音し直すことができること、プレゼンテーションのスライドの文字が見やすいことを考慮し、プレゼンテーションのスライドに音声を入れて作成する方法で行いました。

収録は、城西小学校の放送室で、研究部長の横山校長先生と班のメンバーである神指小学校の大西校長先生にご協力いただいていた。与えられた発表時間は20分程度ですが、横山校長先生に機材操作を担当していただき、通常のプレゼンテーションを用いた発表のように大西校長先生に補助をしていただきながら収録を行いました。最後のスライド部分のみ録り直して、無事収録を完了することができました。

3班に与えられた課題は「自立と社会参加を図る教育の推進」であり、視点は「未来への夢や志を育むキャリア教育の推進」です。2年間の研究とはいえ、原稿の提出期日を考えると実質1年と数ヶ月間の実践内容をまとめることになります。また、児童の自立や社会参加を図ることやキャリア教育を推進していくためには、様々な体験活動を積み重ねたり他者との関わりをもったりして、児童が自他を客観的に認識していくことが必須です。

しかし、コロナ禍の中体験活動や外部との関わりなど教育活動に制限があり、体験活動が実施できないことは大きな障壁です。第1回の班の打ち合わせでは、幸い3班の9校は学校規模も地域の実態も様々であり、それぞれの学校の特徴を再確認し、できることを工夫していこうと話合い、互いの取り組みを共有し、それらを参考にしながら実践を進めることにしました。キャリアパスポートの導入年度と合致したことも、よい契機になったと思います。

研究のスタートとして高学年児童に実施したアンケート調査では、児童の自己肯定感が低いことが浮き彫りとなり、その改善をめざして実践を進めました。同じ児童たちに実施した変容調査では、それが大きく改善しており、実践を積み重ねてきたことに一定の達成感を感じるとともに、改めて児童の成長に果たす体験活動の意義や多様な人々に関わることの大切さを感じました。

この研究にあたり、研究実践に真摯に取り組んでくださった3班の校長先生方、さらに、原稿作成や動画収録にご指導ご支援くださった校長先生方に御礼申し上げ、報告とさせていただきます。



教育随想

「好奇心のタネを」

会津若松市立城西小学校 横山 譲治

長い休み時間は、校長室に遊びに来ていいことにしている。骨・木の実・化石・鉱石が展示してあるのだ。壊さずに触ってほしいが、そもそも子ども達の「すご〜い」の声を期待し発掘・採集してきたので覚悟はできている。校長室前には手作りの科学おもちゃを展示して、長い休み時間に遊んでいい約束。手作りなので壊れても翌日には直せる。これが、校長室の主になって以来ずっと続けている、好奇心をくすぐる実験コーナーだ。

STEAM教育（科学・技術・工学・芸術・数学）が叫ばれている。授業はもちろんだが、環境の重要性が指摘される。ちっぽけな実験コーナーでは自然科学の博物館代わりには程遠いが、好奇心をくすぐる経験が学びを支えると期待して続けている。職員が興味を持って子どもを連れてくることもあれば、子どもが楽しんだ後他の子や職員を案内してくることもある。「そういうことかあ！」と仕掛けに気付く声が聞こえる。変わった木の実や石や虫を拾い尋ねにやって来る職員や子どもがいる。ほんのちょっとした経験だけれど、会話や音読や学習を深めるネタになれば嬉しい。

学校の経営者として取り組むべきことは山盛りだが、折角だから、やってみようと思うこともやりたい。実験コーナーで見せる子どもや職員の「おおっ」という表情を楽しんでいる。さて、次はどんな仕掛けにしようか。



教育随想

「学びが地域とつながる」

会津若松市立湊小学校 樋口 喜敬

昨年度は、できなかった学習発表会、今年は半日でしたが何とか開催することができました。

「三密」を避けるため、家族の人数制限や児童の出番のみの入場など、工夫しながらの開催でした。その中で各学年とも内容を工夫し、とてもいい発表でした。

3年生・地域の野菜農家を見学したこと、4年生・地域を流れる川の水質と猪苗代湖との関係について、5年生・再生エネルギー発電と地球温暖化について、6年生・会津と湊町の歴史と変化について、各学年総合的な学習の時間に学習した内容を中心に劇風に演出し、発表しました。

それぞれの活動で地域の学校支援ボランティアの皆さんの補助をいただき、体験活動や見学学習をたくさん実施してきました。活動したこと、体験したことをまとめることで子ども達の学習が再構築され、学年が進むにつれて内容や広がりも出てきました。そして、その学びを保護者や地域の方に発信することが次の活動や学習へとつながっていくと感じました。学習発表会が見事に学びをつなげ、地域との連携が深まる場になったと思いました。正につながったと思った瞬間です。始めから学習発表会の内容は、生活科や総合的な学習の時間の体験的な学びを発表する場であり、まとめであると位置づけるといいかもしれません。改めてそう思う学習発表会でした。



転入校長所感

「すべては子どもたちの 笑顔のために」

会津若松市立東山小学校 高原 昇

本校は今年度創立148年で、再来年には150周年を迎える伝統ある学校です。学区内には、御薬園や会津の藩主が祭られている院内御廟などがあり、身近に教材があふれている恵まれた環境にあります。地域には「ひがしやま人と地域をつなぐ会」という会があり、地域と共に協働して子どものよりよき成長を育んでいく体制が整っています。

「人、もの、こと」に恵まれている本校が、さらに先を見据えて現在PTA会長さんを中心にPTA改革に取り組んでいます。3年計画で始まったこの改革。今年度が最終年度になります。キーワードは「すべては子どもたちの笑顔のために」。

まずは、PTAの目指す姿を

- ① 本来の保護者・児童に自信を持って引き継げる持続可能な活動。
- ② 身の丈にあった（適正規模の）活動。
- ③ 「強制（ノルマ）」ではない「参加したい」活動。

とし、役員会、常任委員会等で熟議を重ねてきました。その中では、「ある程度強制力を持たせないと参加者が決まってしまうのではないか。」「強制でもやってみて初めて分かることもあるのではないか。」等々、様々な意見が交わされました。

そして、先日最終案ができあがってきました。ここで全体像をお目にかけられないのは残念ですが、まさにこれからのPTAの形になるのではないかと思います。「まずはやってみよう。」との想いのもと、12月には説明会を開き、いよいよ来年度試行としてスタートします。

新任校長抱負

「子どもたちのために」

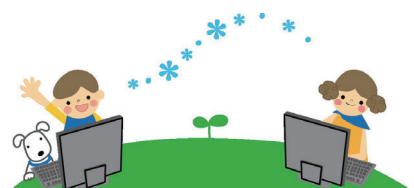
磐梯町立磐梯第二小学校 近野 典男

平成6・7年度に新採用で勤務して以来二度目の会津地区への赴任となりました。初任者の時にご指導くださった先輩方から続々と励ましのお言葉をいただき、喜びと心強さをもって新任校長としてのスタートを切ることができました。

このコロナ禍で、学校の安全・安心に配慮しながら、いかに工夫して教育活動を展開していくか。難しい年にはなりましたが、北会津地区の校長先生方をはじめ、多くの方々にご示唆いただきながら過ごすことができ、日々感謝しております。

さて、先ごろ、この状況下で発表機会の少ない子どもたちのために、町の定時放送（防災行政無線）の音楽を本校合奏部が演奏した音楽に変えてくださるということがありました。こんな時だからこそそのアイデア、そして、子どもたちの思いを大切にしてくださる町の皆様の心遣いに感激しました。町からは、こうした熱い思いはもちろん、幼小中一貫教育や英語教育、ICT教育の充実を図るために、十分な人的・物的支援もいただいております。それらのありがたさを感じる度に、しっかり期待に応えたいと、身の引き締まる思いでおります。

まだまだ未熟者ではございますが、「子どもたちのために」という気持ちを大切に、先輩の校長先生方から多くのことを学び研鑽してまいりたいと思いますので、ご指導をどうぞよろしくお願いいたします。



新任校長抱負

「全集中・・・」

会津若松市立大戸小学校 遠藤 淳

「大戸小学校は、児童園があるから大変かもしれないよ。」という赴任前の校長先生の言葉かけに不安な気持ちで着任したことを覚えています。

第1学期の始業式で初めて子どもたちと対面し、その不安は一気に払拭されました。元気な子どもたちのあいさつ、始業式での話の聞き方、教室での様子など、どれを見ても子どもたちは落ち着いています。

子どもたちは、登・下校時に校長室の入り口をノックし、「おはようございます。」「さようなら。」とあいさつしてくれます。毎日、癒されています。

『ふるさとを愛し、夢に向かって挑戦する子ども』の教育目標に向け、先生方も少人数の特性を生かし、常に子どもの目線に立ち、寄り添った指導を行っています。コロナの対応についても前向きで、とても頼りになる先生方ばかりです。

そんな恵まれた学校で、私は校長として、子どもたち、先生方の毎日の安心・安全のために“全集中”で職務を果たしていきたいと考えています。

郡山市から会津若松市に移り住んで半年以上が経ちましたが、とても住みやすい街であると実感しております。

北会津支会の校長先生方にも何もわからない私に声をかけていただいて、とても心強く感じております。今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。

忘れもしません…着任前の3／31、荷物をまとめ前任校を出たのが夜10時だったこと。4／1の8時に教育委員会に出向いたこと。気持ちの切り替えなどする間もなく、着任してしまったこと…。

新任校長抱負

「新鮮さを楽しんで」

猪苗代町立翁島小学校 吉川 奏子

4月より赴任し、地区内の校長先生方には大変お世話になっております。初めての会津域内であり野口英世博士の母校の勤務に「自分に務まるだろうか」と初めは不安な気持ちが募りました。

そのような自分の気持ちを察してか、地区内の校長先生方には校長会や小教研等で助けていただく毎日を過ごしております。とりわけ猪苗代町の校長先生方には町内の事業の流れや取り組み方を教えていただいています。本当にありがとうございます。

こちらに参って新鮮なこと（見えないこと）の一つがスキー学習です。教育課程の位置づけがふんだんで、校内と町内のスキー大会、充実した備品にも目を見張ります。

「クロカン」「アルペン」、スノーモービルで校庭に「コースを切る」こと等、福島市出身の私には想像しがたいことですが、冬タイヤに履き替えたこの頃では、楽しもうと心に決めています。もう一つ新鮮なことに、野口英世博士の存在です。博士を顕彰する事業を通してその偉業や生き方が町や学区に深く浸透し、めざす子どもの姿となっています。子どもと教職員を知るにつれ、これらの取組によって翁島の子どもが育まれていることに気付くとともに、保護者や地域の方々の厚いご支援にお応えしたいと強く思っています。

今後とも、よろしくお願いいたします。



ご転出校長先生からの メッセージ

「515mから291mへ」

前猪苗代町立翁島小学校 永島 慶和

11月中旬、バス車窓から磐梯山とのご対面を経て、「修学旅行」の引率で錦秋の会津若松市を堪能いたしました。

懐かしい感情と同時に、新任校長として2年間、小学校長会北会津支会の皆様にお世話になった思い出が甦ってきました。他管内出身の私には「北会」を「ほっかい」と呼ぶ響きが心地よく、校長先生方のフレンドリーな横のつながりに、何度となく助けられました。今でも感謝しています。

千載一遇であった野口英世博士の母校翁島小学校から、中島村立滑津小学校へ異動しました。標高515mから291mへの赴任です。毎日、崇高な磐梯山を見上げていたので、実際の高さを意識することはありませんでした。一方、現任校は高台に建つ立地環境で周囲の田園風景をぐるりと一望できるのです。数字以上の高さを体感する、不思議な感覚の中で過ごしています。

異動に際し、「所変われば・・・」と心機一転のつもりでしたが、同じモノが存在していました。地域の「教育資源」からの恩恵です。本校でも、独自の教育資源の活用により、伝統的に様々な体験活動を展開していました。地域の教育資源を発掘し、教育効果に結びつける。「地域と共にある」学校として重要な役割のひとつです。学びたいという子どもたちの想いを止めずに、豊かな教育活動の保障に努めたい。それは、見えない脅威と共存する生活でたどり着いた、所変わらぬ答えでしょう。熟考の中で明確な根拠を見つけて、強くしなやかに対応できる実践力を身に付けたいと願い、試行錯誤で奮闘する毎日であります。

お世話になった恩返しとして、「あいつも、なかなか頑張ってるな」と風の便りで伝えられるよう精進します。

ご転出校長先生からの メッセージ

「苦の中に光あり」

前磐梯町立磐梯第二小学校 佐久間 仁

安達太良山頂に初雪が降り、朝晩の冷込みに冬の到来を感じる季節となりました。

不肖私ですが、昨年度末人事により自分が生まれ育った二本松への勤務を命じられ、4月塩沢小学校へ着任しました。故郷の児童の教育に携われる喜びと共に課せられた使命と責任の重さを感じる毎日です。

2月に起きた福島県沖地震により本校は校舎の一部が損壊し、4月の入学式は多目的ホールで実施しました。コロナの影響により、4月の授業参観は中止、5月の運動会は延期になる等、先が見通せない不安な毎日が続きました。そんな中でも前を向く力をくれたのは、子どもたちの笑顔と保護者や地域の支えでした。教育委員会のご尽力により復旧へ向けた工事も始まります。非常時においても子どもの学びを止めないため、一人1台端末の配備と共に、Zoomの接続やMetaMojiClassRoomの使用など、オンライン学習の準備も進んでいます。

10月になりコロナが収束に向かう中、延期していた運動会を実施しました。保護者の温かい声援を受け、転んでもぶつかっても諦めずにゴールを目指す子どもたちの姿に目頭が熱くなる思いでした。会津方面への修学旅行や宿泊学習等も実施し、教室では味わえない体験活動の醍醐味を改めて感じることができました。



いまだかつて誰も経験したことのない苦境の中にあって、希望を見失わず、連帯して乗り切るすべを教えてくださいましたのは他ならぬ北会津の校長先生方だったと感謝しています。北会津校長会の益々のご発展と校長先生方のご健勝をお祈りします。

ご退職校長先生からの メッセージ

「人の和と輪と縁」

前会津若松市立河東学園小学校

渡部 仁一

湯川村の小学校に勤めた縁で、村の公民館で働かせていただいています。

勝常小在職時の子どもたち、授業参観やPTA活動、祖父母学級の時に関わった保護者やおじいちゃん・おばあちゃんなど、私を覚えてくれている方が大勢いて、声をかけてくださいます。特に、祖父母学級の折に、祖父母の皆様と一緒に歌ったり、講話や模擬授業をしたりしたので「あの時は、〇〇が楽しかったよ。」「先生からの〇〇は、今も飾ってあるよ。」などと、いろいろと思い出を話してくださいます。

社会教育は、地域の皆様に接することが多く、人と人との結びつきの大切さを痛感する日々です。私の担当講座では、副村長さんや教育長さんの講話、ノルディックウォーキング、猪苗代町の名所・旧跡巡り、下郷町に行つての陶芸教室、小学校の社会科や道徳の授業体験、化石発掘、美術館見学、高齢者の健康教室等を実施しています。

学校教育と違う世界を体験させていただき、視野が広がっています。この仕事に、私を推薦してくださった村社会教育主事の栗村良輔先生に、感謝の気持ちでいっぱいです。

出合いに感謝し、人の和と輪を大切にしながら、地域の皆様に少しでも恩返しできたらと考えています。

最後になりましたが、校長会の益々の発展と皆様のご多幸をお祈り申し上げます。



健康教室後「にこにこ勝常」の皆様と

ご退職校長先生からの メッセージ

「生徒とかかわる喜び」

前会津若松市立荒館小学校 吉田ひとみ

ご無沙汰しております。その節はお世話になりました。皆様のご指導のお陰で、滞りなく校長職を全うすることができました。ありがとうございました。児童と一緒に遊んだり勉強したりしたことも全て、忘られない大切な宝物になっています。

さて、今年度から中学校国語教師として働かせていただいておりますが、久しぶりに生徒と一緒に授業や部活動を行い、毎日楽しく元気に過ごしております。

久しぶりの中学校は学習指導要領も教科書も変わり、毎日が波乱万丈ですが、生徒に寄り添いながら過ごすことの喜びを改めて噛み締めているところです。そして、「わかった!」「そうかあ!」と言ってもらえる(時々ですが...)幸せに浸っています。



3年生の劇に羊に扮して出演(右端)

また、老体にムチ打ちながらも駅伝練習を一緒に行ったり、文化祭時の学年の劇に参加したりし、学校現場で、一教師として生徒と一緒に楽しく活動できることの喜びを日々満喫しています。

さらに、若い先生方と気兼ねなくいろいろなことを話したり、ICTについて教わったりしながら過ごす毎日気持ち若返るようでわくわくします。若者からすると迷惑かもしれませんが...